Arcserve® Unified Data Protection 8.x

ライセンスガイド

V2.1

arcserve®

1. ライセンス選定方法

Arcserve UDPは以下の手順でライセンスを見積もります

STEP1：
バックアップ
対象の選択

STEP2：
バックアップ
要件の確定

STEP3：
課金単位の
選択

STEP4：
購入方法の
選択

注意：バックアップ要件を確定する際は、サポートページで
導入先サーバの動作要件を必ず確認してください。

Arcserve UDP サポートページ：
https://support.arcserve.com/s/topic/0TO1J000000I3pqWAC/arcserve-udp-compatibility-matrix?language=ja

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

STEP1： バックアップ対象の選択

ライセンスは「バックアップ対象」にのみ必要です。
バックアップ対象ノード数またはバックアップ対象サーバのソケット数のライセンスが必要です。
Arcserve UDP コンソールおよび 復旧ポイントサーバ (RPS：バックアップ保存先サーバ) にライセンスは不要です。

バックアップ対象

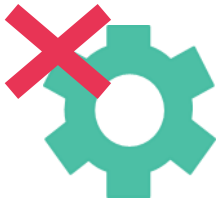
物理サーバ

仮想サーバ

クライアントPC

共有フォルダ

Microsoft 365


特定のオプション

管理コンポーネント

インストール

※Arcserve Replication/High Availability 機能を利用する場合、ライセンスは複製元と複製先サーバ (物理/仮想ホスト)の両方にライセンスが必要です。

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

STEP2：バックアップ要件の確定
（Editionの種類 と 含まれる機能）

Edition	サーバ用			PC用	利用コンポーネント
	Advanced/ for Nutanix	Premium	Premium Plus	Workstation	
イメージ バックアップ / 共有フォルダ (CIFS/NFS ※1) のバックアップ	●	●	●	●	Arcserve UDP
バックアップ データの重複排除や転送（レプリケート）	●	●	●	●	
統合管理	●	●	●	●	
仮想マシンのエージェントレス バックアップ（vSphere/Hyper-V/AHV ※1）	●	●	●	●	
バックアップ データのテープ保管	●	●	●	●	
仮想スタンバイ/インスタントVM	●	●	●	※2	
VSS ライタを利用したアプリケーションのオンライン バックアップ ※3	●	●	●	※4	
アシュアードリカバリとSLAレポート		●	●		
ハードウェアスナップショット対応（NetApp / HPE 3PAR / Nimble など)		●	●		
役割ベースの管理		●	●		
Arcserve Backup すべての機能 ／ 全エージェント／全オプションの利用 ※5		●	●		Arcserve Backup
Arcserve Replication ファイル サーバのデータ複製		●	●		Arcserve Replication /HA
Arcserve Replication/High Availability のすべての機能 ※5			●		

※1：AHV 上の仮想マシンまたは Nutanix Files のバックアップを行うには Advanced Edition for Nutanix を購入してください。
※2：Workstation Edition では vSphere/Hyper-V への仮想スタンバイのみ行えます。
※3：Microsoft 365 (Exchange Online、SharePoint Online、OneDrive および Teams) の保護には、別途専用のサブスクリプションを提供しています。
※4：Microsoft SQL Server Express Editionのみオンライン バックアップをサポートします。
※5：「すべての機能」とは、日本語の動作要件に記載されている製品（機能）が対象です。

arcserve

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

各 Edition で出来ること

Advanced Edition とは

・物理/仮想環境/クラウド上で構築される Windows/Linux サーバのイメージ バックアップおよび復旧
・統合管理
・バックアップデータの集約先（データストア）の提供
・ソース側での重複排除バックアップ
・バックアップ データの複製および遠隔転送
・バックアップ データのテープ保管（D to D to T）
・Oracle Database、Microsoft SQL・Exchange・SharePointのオンライン バックアップおよびデータベース単位での復旧
・Microsoft Exchange のメール単位の復旧
・Hyper-V ホストと仮想マシンの一括バックアップ
・仮想スタンバイ
・インスタントVM

※ Nutanix AHV のエージェントレス バックアップや Nutanix AHV への仮想スタンバイ/インスタントVM、Nutanix Files のバックアップは、「Advanced Edition for Nutanix」を購入してください。

Premium Edition とは

このライセンスは Advanced Edition に加えて、以下のことができます。
・アシュアード リカバリ
・ハードウェア スナップショット
・役割ベースの管理
・Arcserve Backup の全機能、エージェントおよびオプションの利用
・Arcserve Replication のファイルサーバ レプリケーション シナリオの利用（ファイル ベースのリアルタイム レプリケーション）

Premium Plus Edition とは

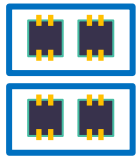
このライセンスは Premium Edition に加えて、以下のことができます。
・Arcserve Replication および Arcserve High Availability の全機能 / 全シナリオの利用

Workstation Edition とは

・クライアント OS のバックアップに最適化したライセンスで、重複排除、統合管理、遠隔転送 仮想スタンバイ、バックアップデータのテープ保管が行えます

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

STEP3：課金方法の選択



サーバ台数 課金 (per Server)	CPU ソケット数 課金 (per Socket)	データ容量 課金 (per Terabyte)
保護対象の物理サーバ台数分のライセンスを購入する (物理サーバに適用)	保護対象サーバのCPUソケット数分のライセンスを購入する(未使用ソケット分は不要)	保護対象サーバの総データ容量分のライセンスを購入する ※1
Advanced	Advanced/ Premium/Premium Plus	Advanced/ Premium/Premium Plus

※1 Microsoft 365 データの保護も可能

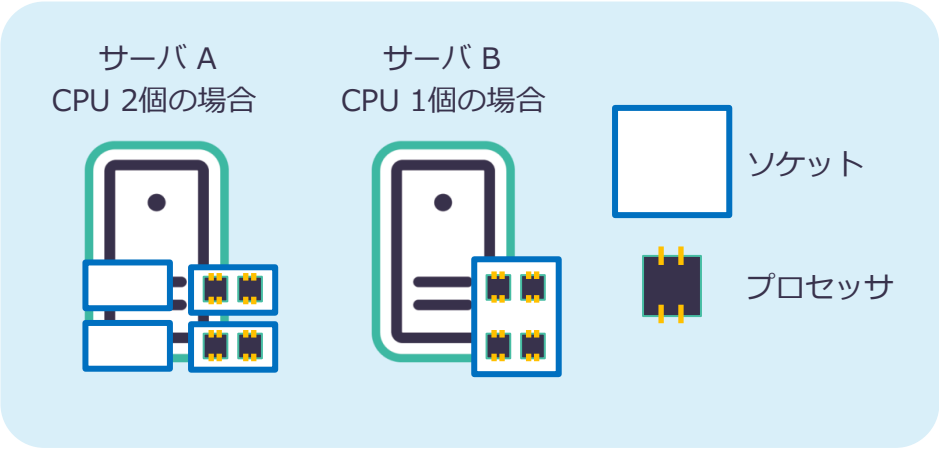
注：
1. Workstation Edition はクライアントPC台数の課金
2. Exchange Online、SharePoint Online、OneDrive および Teams はユーザ数での課金

arcserve

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

CPU ソケット単位 (per Socket)　とは

ソケット単位 (per Socket)とは、保護対象サーバが使用している物理プロセッサ(CPU) ソケット数のライセンスを購入する課金方法です。プロセッサ接続のない空きソケットは、ソケット数に計上する必要ありません。マザーボードは1つ以上のソケットを持つことができます。ソケットあたり「コア」（物理マイクロプロセッサ内の論理マイクロプロセッサー）数に制限はありません。
プロセッサのない空のソケットは、ソケット単位のライセンスは必要ありません。例えば、単一のソケットに取り付けられたクアッドコア（Quad Core) CPU（下図サーバ B ）を実行しているサーバーにのみ1ソケットのライセンスが必要です。



- **サーバ A** には、2ライセンスが必要です。デュアル コア プロセッサで 2 つのソケットが使用中です。
- **サーバ B** には、1ライセンスが必要です。クアッドコアプロセッサで 1 つのソケットが使用中です。

arcserve

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

CPU ソケット数の確認方法

Windows OS の CPU ソケット数確認例

「systeminfo」または「msinfo32」を使用して確認することができます。また、Windows 2012 以降の OS では、タスク マネージャで確認することができます。

Linux OS の CPU ソケット数確認例

「cat /proc/cpuinfo | grep processor」を使用して確認することができます。

※ ただし、Hyper-Threading (ハイパースレッディング) が有効な環境では、「cat /proc/cpuinfo | grep “physical id”」を使用して確認することができます。

VMware の CPU ソケット数確認例

vSphere Client から ESXi に接続して「サマリ」タブの [プロセッサ ソケット] で確認することができます。

データ容量課金の考え方

データ容量課金の対象は、対象の台数や CPU ソケット数に関わらず保護対象データ容量の総計です。

arcserve

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

STEP4：購入方法の選択

永久ライセンスを所有するライセンス プログラムか、
使用権を定期購入するサブスクリプションのいずれかを選択します、

ライセンス プログラム（永久ライセンス）

・従来バージョンからある購入方法
・永久に利用できるライセンスと、メンテナンス をセットで購入
・メンテナンス期間は 1年/3年/4年/5年から選択

※メンテナンスには期間中のテクニカル サポートと最新バージョンへの無償アップグレード権が含まれます。

サブスクリプション

・ソフトウェアの使用権とメンテナンスがセット
・1年または5年間の期間を選択
・資産管理や減価償却処理が不要
・Microsoft 365 のバックアップはサブスクリプション方式のみ
・容量単位ライセンスはサブスクリプションの方が安価

※ この他、「Advanced Edition – サーバ単位」と「Workstation Edition」に限り、メンテナンス付きパッケージ製品という購入方法もありますが、本資料では説明を割愛します。

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

2. ライセンス構成例（1/2）

	No.	構成例
物理環境	1	物理サーバを NAS にバックアップ
	2	Linux 物理サーバのバックアップ
	3	物理サーバを復旧ポイントサーバ(RPS)にバックアップ
	4	復旧ポイントのコピー
	5	ファイル コピー
	6	ファイルサーバとArcserve UDP コンソール/RPSのバックアップ
	7	クラスタ共有ボリューム (CSV) のデータ バックアップ
	8	共有フォルダ (CIFS/NFS) のバックアップ
	9	Windows/Linux混在環境バックアップデータのテープ保管
	10	物理サーバのバックアップと災害対策
	11	vSphere/Nutanix AHVを使用した仮想スタンバイによる業務継続
	12	遠隔地のvSphere/Nutanix AHVを使用した仮想スタンバイによる業務継続
	13	Hyper-Vを使用した仮想スタンバイによる業務継続
	14	遠隔地のHyper-Vを使用した仮想スタンバイによる業務継続
	15	AWS EC2/Azure 上に仮想スタンバイし業務継続
	16	インスタントVMによる短時間での復旧
	17	Microsoft SQL/Exchange/SharePoint/Oracle の無停止バックアップ
	18	クラスタ共有ボリューム (CSV) の Microsoft SQL のバックアップ

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

2. ライセンス構成例（2/2）

	No.	構成例
物理環境	19	Active Directory ドメイン コントローラのバックアップ
	20	Linux サーバ上の Oracle のオンライン バックアップ
	21	アシュアード リカバリ (バックアップ データの確認)
	22	UDP コンソールを操作するユーザごとに権限を割り当て
	23	ストレージ連携による高速バックアップ
仮想環境	24	UDP エージェントを利用したvSphere / Hyper-V / Nutanix AHV 仮想マシンのバックアップ
	25	vSphere 仮想マシンの エージェントレス バックアップ
	26	Hyper-V 仮想マシンのエージェントレス バックアップ
	27	Nutanix AHV 仮想マシンのエージェントレス バックアップ
	28	Windows / Linux 仮想マシン混在環境のエージェント レス バックアップ
	29	Arcserve Backupで仮想マシン上のDBサーバを無停止でテープにバックアップ
	30	Arcserve Replication で仮想ファイル サーバを複製し バックアップ
	31	Arcserve Replicationで複数の仮想ファイル サーバを複製しバックアップ
	32	Arcserve High Availability で複数の仮想DB サーバをスイッチオーバ
	33	Arcserve High Availability で仮想DBサーバをスイッチオーバし、UDPでバックアップ
クライアントPC	34	クライアントPC のバックアップ
Microsoft 365	35	Microsoft 365 (Exchange Online/SharePoint Online/OneDrive/Teams) の保護

arcserve

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

構成例の見方

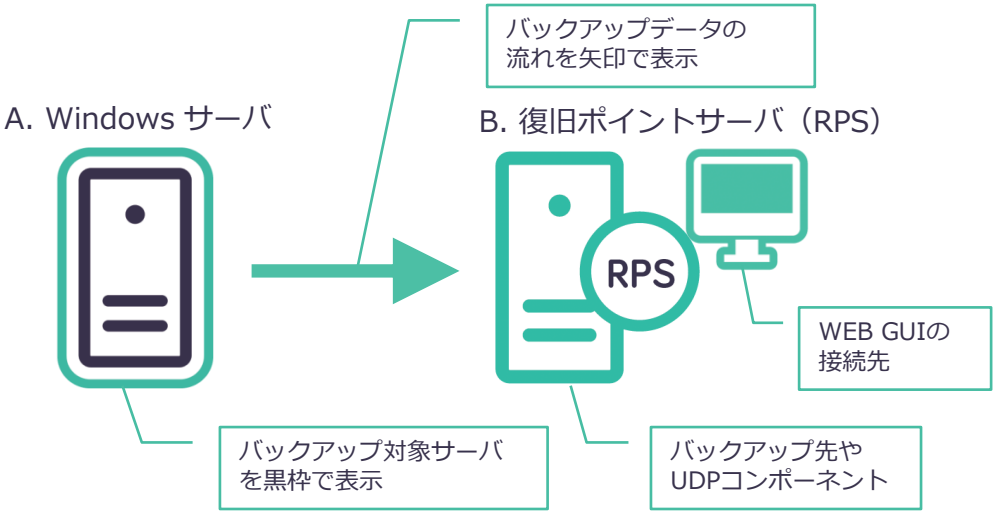
ここでは、次項に続くライセンスの例について説明しています。

環境例：
Windows サーバ　1台
復旧ポイント サーバ※ (RPS)　1台

環境例では、バックアップ対象のサーバ台数を記載しています。

要件例：
Windows サーバ全体をイメージ バックアップする
バックアップサーバでスケジュールの管理を実施する

要件例では、主なバックアップとリカバリ要件を記載しています。



※ 復旧ポイント サーバ(RPS)とは、Arcserve UDPのバックアップデータ（復旧ポイント）を保管するサーバで、RPSによりバックアップデータの重複排除や遠隔地への転送ができるようになります。
※RPSを利用しない場合も対象サーバのバックアップは可能です。
※ **以降、本資料内では『RPS』と記載します**

バックアップ対象	Edition	課金単位	数
A	Advanced	サーバ単位	1

バックアップの構成例を図にしています。
下表では、必要な Edition とライセンス数を記載しています。

arcserve

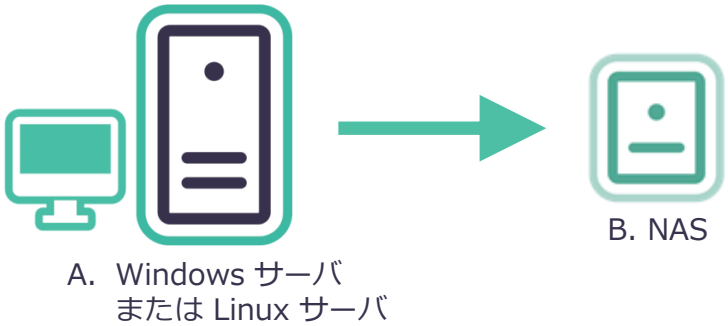
Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

物理環境

arcserve®

[1] 物理サーバを NAS にバックアップ

環境例	• Windows サーバ または Linux サーバ 1台
要件例	• NAS 共有フォルダにサーバ全体をバックアップ • スケジュールはエージェントに接続しWEB GUIで操作 • 障害時はバックアップ元または別サーバに復旧（システム保護）



ライセンス	バックアップ対象	Edition	課金単位	数
	A	Advanced	サーバ単位	1
ポイント	バックアップ対象にエージェントをインストールする最小構成です。サーバ全体をブロックレベルで増分バックアップするので、バックアップ時間短縮と保存先ストレージ使用量の削減ができます。ファイル単位リストアやベアメタル復旧、アプリケーションのオンラインバックアップも標準機能として利用できます。バックアップ先には NAS 共有フォルダの他、ローカル ディスクや USB 接続の RDX も利用できます。			

arcserve

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

[2] Linux 物理サーバのバックアップ

環境例	• Linux サーバ　　2台
要件例	• 2台の Linux サーバを NFS 共有されたディレクトリにバックアップ • スケジュールは Linux バックアップ サーバで統合管理 • 障害時はバックアップ元または別サーバに復旧（システム保護）

A. Linux サーバ

B. Linux バックアップ サーバ
(ローカルディスクをNFSで共有)

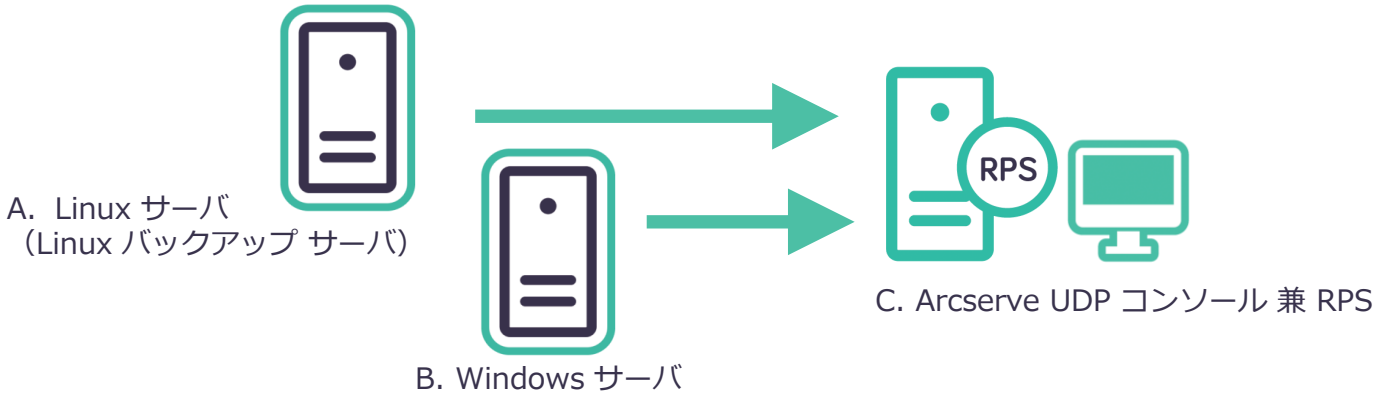
ライセンス	バックアップ対象	Edition	課金単位	数
	A、B	Advanced	サーバ単位	2
ポイント	Linux 単一環境でも複数サーバのバックアップを集中管理できます。Arcserve UDP Linux Agent を1台のサーバだけにインストールすれば、あとは他サーバのバックアップに必要なモジュールが自動配布されるのでインストール作業は短時間で完了します。バックアップ先は NFS 共有の他、CIFS 共有、ローカルディスクが利用可能で、増分バックアップに対応します。			

arcserve

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

[3] 物理サーバを復旧ポイントサーバ(RPS)にバックアップ

環境例	• Windows サーバ 1台 、Linux サーバ 1台
要件例	• RPS にバックアップし、バックアップデータ量を重複排除で削減 • スケジュールは Arcserve UDP コンソールの WEB GUI に接続し統合管理 • 障害時はバックアップ元または別サーバに復旧（システム保護）

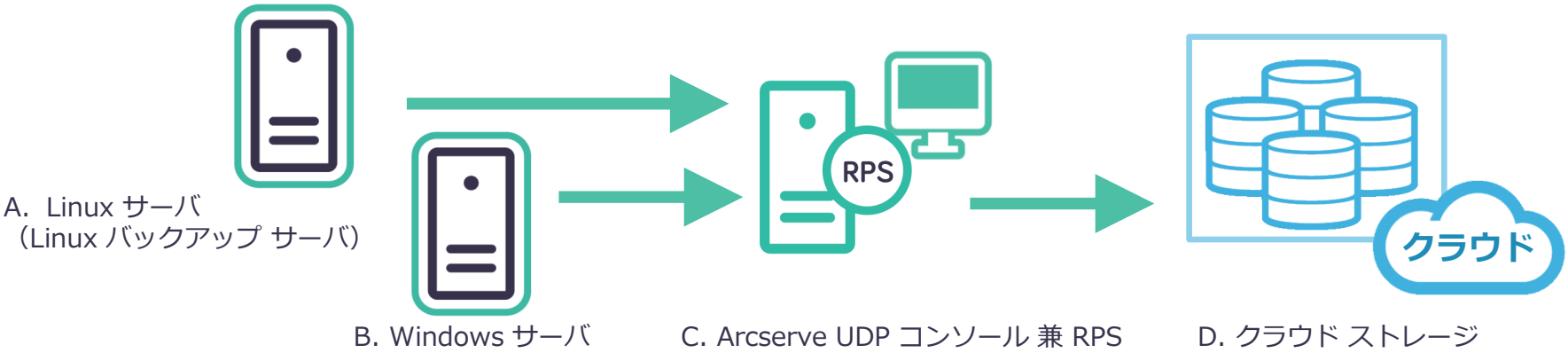


ライセンス	バックアップ対象	Edition	課金単位	数
	A、B	Advanced	サーバ単位	2
ポイント	エージェントを利用し RPS へバックアップする構成です。RPS をバックアップ先に指定すれば増分バックアップだけでなく重複排除も併用できます。重複排除はバックアップ元で重複排除したデータを転送するのでネットワーク負荷が軽減され、バックアップ時間の短縮と保存量の削減効果があります。Arcserve UDP コンソールを利用すればバックアップ対象に Windows/Linux、物理/仮想が混在していても1つの WEB GUI で統合管理ができます。			

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

[4] 復旧ポイントのコピー

環境例	• Windows サーバ 1台、Linux サーバ 1 台、Arcserve UDP コンソール兼 RPS 1台
要件例	• Windows /Linux サーバ全体を RPS へ バックアップ • 復旧ポイント(バックアップ データ)をクラウドに 2 重化



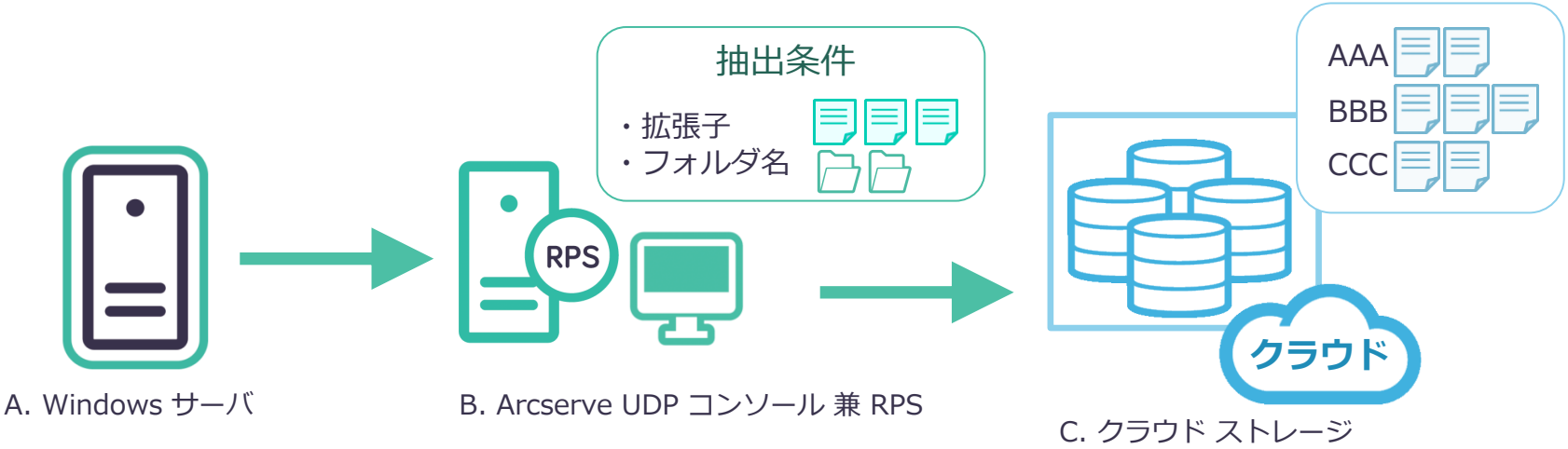
ライセンス	バックアップ対象	Edition	課金単位	数
	A、B	Advanced	サーバ単位	2
ポイント	ファイルサーバを RPS にバックアップします。バックアップしたデータの復旧ポイントをクラウド ストレージに 2 重化できます。バックアップ完了後に引き続いてコピーを実行することが可能です。 *バックアップ先および復旧ポイントのコピー先には共有フォルダも利用できます			

arcserve

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

[5] ファイル コピー

環境例	• Windows サーバ 1台、Arcserve UDP コンソール兼 RPS 1台
要件例	• Windows サーバ全体を RPS へ バックアップ • バックアップデータからクラウドへ、重要なファイルのみを抽出しコピー



ライセンス	バックアップ対象	Edition	課金単位	数
	A	Advanced	サーバ単位	1
ポイント	ファイルサーバを増分バックアップで RPS にバックアップします。バックアップしたデータから重要なファイルやフォルダを抽出し、重要なファイルのみをクラウド ストレージに 2 重化できます。継続増分バックアップからもファイルコピーが可能です。コピー先の保管世代を自由に設定できます。 *バックアップ先および復旧ポイントのコピー先には共有フォルダも利用できます			

arcserve

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

[6] ファイルサーバと Arcserve UDP コンソール/RPS のバックアップ

環境例	• Windows サーバ 1台、Arcserve UDP コンソール兼 RPS 1台
要件例	• Windows サーバ全体を RPS へ バックアップ • 重複排除データストアを含む RPS サーバ全体を Arcserve Backup でバックアップ • 障害時はバックアップ元または別サーバに復旧（システム保護）

A. Windows サーバ

B. Arcserve UDP コンソール 兼 RPS 兼 Arcserve Backup Base

C. 共有フォルダ

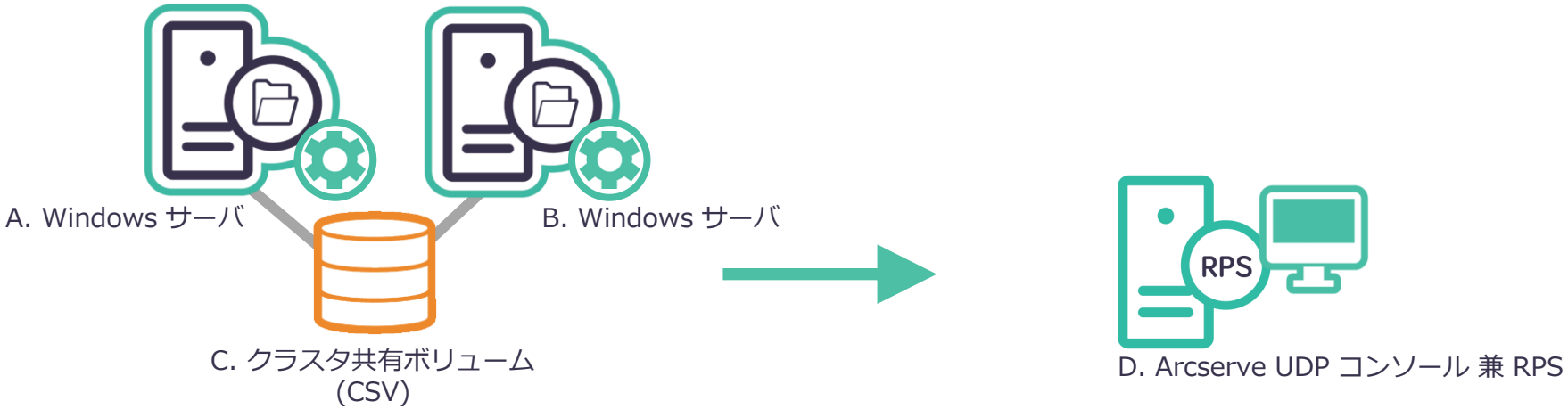
	バックアップ対象	Edition	課金単位	数
ライセンス	A	Advanced	サーバ単位	1
	B	Premium	（Bの）ソケット単位	1
ポイント	ファイルサーバを増分バックアップで RPS に重複排除でバックアップします。重複排除が有効なデータストアを含む B サーバのフル バックアップは Arcserve Backupで保護します。データストアをバックアップするには Agent for Open Files を使用します。 *サーバ Bのソケット数が1の場合。ソケット数が2の場合は、2ライセンス必要です *Arcserve Backup の保護対象となる、すべてのサーバ/仮想ホストに ”Premium Edition” ライセンスが必要です			

arcserve

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

[7] クラスタ共有ボリューム (CSV) のデータ バックアップ

環境例	• 2 ノードのクラスタ共有ボリューム、Arcserve UDP コンソール兼 RPS 1台
要件例	• 2 ノードで構成されているクラスタ共有ボリュームのデータ保護 • 継続的な増分バックアップ

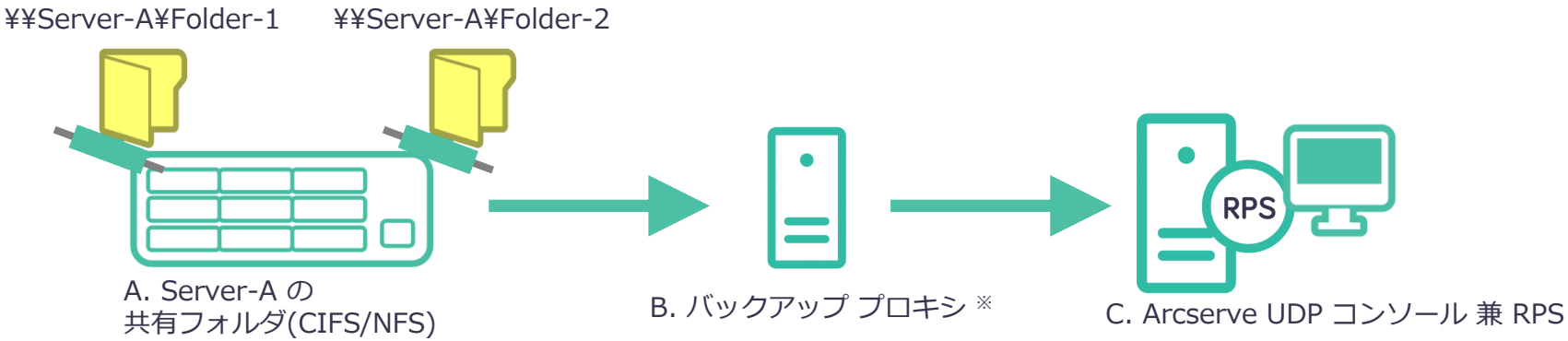


ライセンス	バックアップ対象	Edition	課金単位	数
	C	Advanced	サーバ単位	2
ポイント	クラスタ共有ボリュームのバックアップは、クラスタを構成している環境のすべてのサーバのライセンスが必要です。 *各 Windows サーバにエージェントを導入し、サーバ全体をバックアップ対象とすることで、サーバの保護ができます。			

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

[8] 共有フォルダ (CIFS/NFS) のバックアップ

環境例	• ネットワーク上の共有フォルダ2つ、Arcserve UDP コンソール兼 RPS 1台
要件例	• エージェントをインストールできないストレージや NAS のデータ保護 • 継続的な増分バックアップ



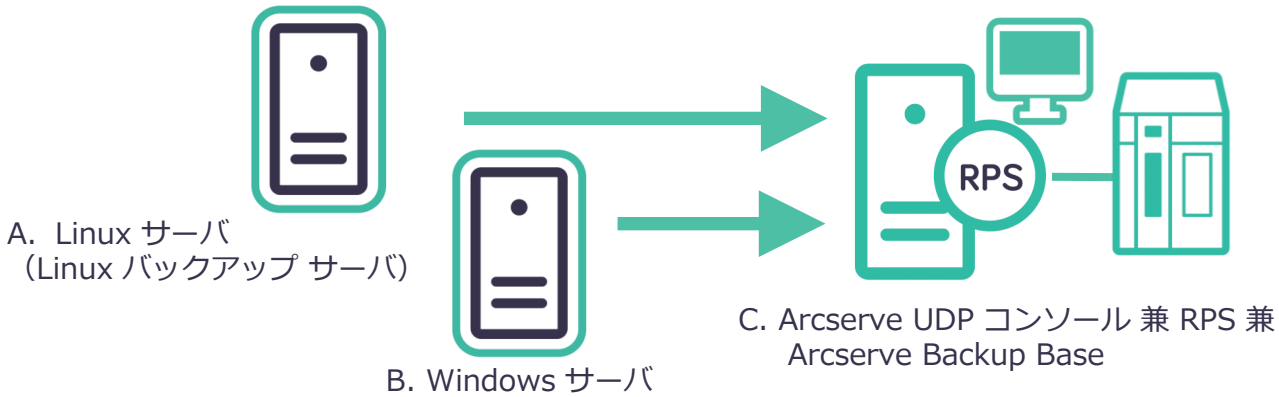
ライセンス	バックアップ対象	Edition	課金単位	数
	A	Advanced	ソケット単位	1
ポイント	・共有フォルダのバックアップは、サーバごとに1ソケット ライセンスが必要です。 ・同じサーバ上の複数の共有フォルダをバックアップする場合は追加ライセンスは不要です。 ・Nutanix Files のスナップショットと連携してバックアップを行うには、Arcserve UDP Advanced Edition for Nutanix を購入してください。 ・複数のコントローラーを搭載している NAS をバックアップする場合、ルートディレクトリが共通のサーバ名となる場合はライセンスは1つで構いません。ルートディレクトリをコントローラ毎に分けている場合は、コントローラ分のライセンスが必要です。 ・Server-A のイメージ バックアップ用にライセンスを購入済みの場合、Server-Aが物理マシンの場合の特例として共有フォルダのバックアップ用にライセンスの追加購入は不要です。			

※ バックアップ プロキシとは、バックアップ処理を実行するサーバです。バックアップ プロキシ自身をバックアップする場合は、別途ライセンスが必要です。

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

[9] Windows/Linux混在環境バックアップデータのテープ保管

環境例	• Windows サーバ 1台、Linux サーバ1台
要件例	• Windows/Linux サーバを RPS にバックアップ • バックアップ データをテープに2次保管 • 障害時はバックアップ元または別サーバに復旧（システム保護）



ライセンス	バックアップ対象	Edition	課金単位	数
	A、B	Advanced	サーバ単位	2
ポイント	Windows/Linuxサーバを RPS にバックアップします。ファイル単位リストアや重複排除、ベアメタル復旧が標準機能として利用できます。さらに標準機能で Arcserve UDP のバックアップデータを Arcserve Backup でテープへ2次保管できるので、テープ メディアによる長期保管が可能です。 *2ドライブ以上搭載したテープ装置の利用には Arcserve UDP Premium Edition が必要です			

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

[10] 物理サーバのバックアップと災害対策

環境例	• Windows または Linux サーバ 1台
要件例	• Windows サーバを RPS にバックアップ • バックアップ データを遠隔地の RPS に転送 • 障害時はバックアップ元または別サーバに復旧（システム保護）

A. Windows サーバまたは、
Linuxサーバ（Linux バックアップ サーバ）

B. RPS

C. Arcserve UDP コンソール 兼 RPS

ライセンス	バックアップ対象	Edition	課金単位	数
	A	Advanced	サーバ単位	1
ポイント	Windows/Linux サーバを RPS にバックアップします。ファイル単位リストアや重複排除、ベアメタル復旧が標準機能として利用できます。さらにバックアップデータを遠隔地の RPS に複製できるので標準機能だけで災害対策も実現できます。			

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

[11] vSphere / Nutanix AHVを使用した仮想スタンバイによる業務継続

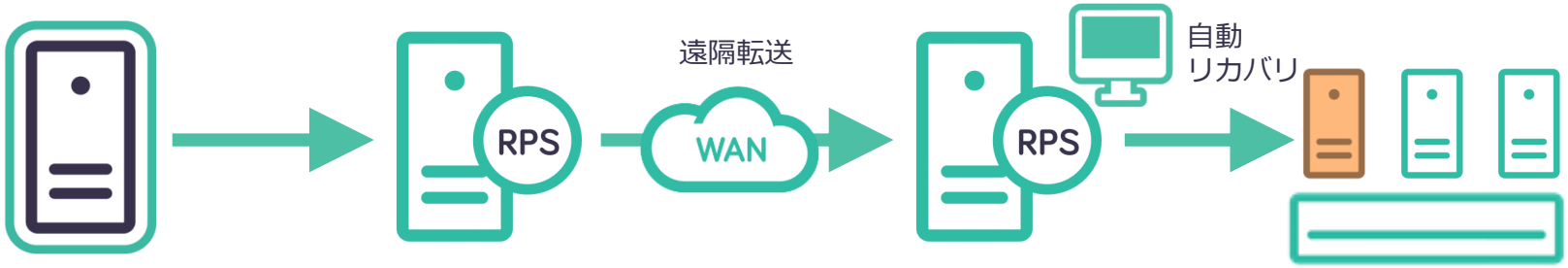
環境例	• Windows サーバ 1台
要件例	• Windows サーバを RPS にバックアップ • 予めバックアップデータを自動リカバリしておき、障害発生時には仮想マシンを起動するだけの短時間で業務継続（仮想スタンバイ）

ライセンス	バックアップ対象	Edition	課金単位	数
	A	Advanced*	サーバ単位	1
ポイント	Windows サーバを RPS にバックアップします。ファイル単位リストアや重複排除、ベアメタル復旧が標準機能として利用できます。バックアップ完了後に自動的にリカバリしておき、障害発生時は仮想マシンを起動するだけの短時間で業務継続できます。 ※バックアップ先が共有フォルダの場合でも利用できます *Nutanix AHV への仮想スタンバイは「Advanced Edition for Nutanix」をご利用ください。			

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

[12] 遠隔地の vSphere / Nutanix AHV を使用した仮想スタンバイによる業務継続

環境例	• Windows サーバ 1台
要件例	• Windows サーバを RPS にバックアップ • バックアップ データを遠隔転送 • 予めバックアップデータを自動リカバリしておき、障害発生時には仮想マシンを起動するだけの短時間で業務継続（仮想スタンバイ）



A. Windows サーバ　B. RPS　C. Arcserve UDP コンソール 兼 RPS　D. VMware vSphere Nutanix AHV*

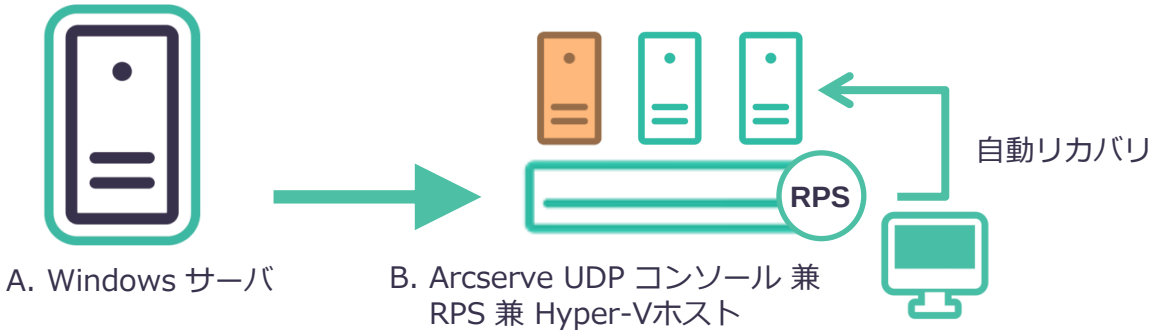
ライセンス	バックアップ対象	Edition	課金単位	数
	A	Advanced*	サーバ単位	1
ポイント	Windows サーバを RPS にバックアップします。ファイル単位リストアや重複排除、ベアメタル復旧が標準機能として利用できます。バックアップデータの遠隔転送も標準機能として利用可能で、バックアップ完了後に自動的に仮想マシンとしてリカバリしておき、障害発生時は仮想マシンを起動するだけの短時間で業務継続できます。 *Nutanix AHV への仮想スタンバイは、「Advanced Edition for Nutanix」をご利用ください。			

arcserve

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

[13] Hyper-V を使用した仮想スタンバイによる業務継続

環境例	• Windows サーバ 1台
要件例	• Windows サーバを RPS にバックアップ • 予めバックアップデータを自動リカバリしておき、障害発生時には仮想マシンを起動するだけの短時間で業務継続（仮想スタンバイ）

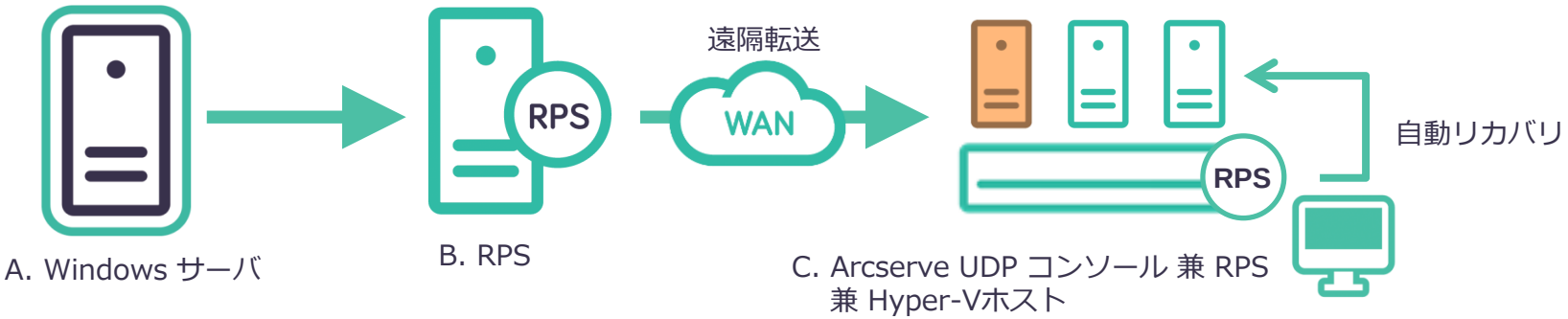


ライセンス	バックアップ対象	Edition	課金単位	数
	A	Advanced	サーバ単位	1
ポイント	Windows サーバを RPS にバックアップします。ファイル単位リストアや重複排除、ベアメタル復旧が標準機能として利用できます。バックアップ完了後に自動的にリカバリしておき、障害発生時は仮想マシンを起動するだけの短時間で業務継続できます。			

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

[14] 遠隔地の Hyper-V を使用した仮想スタンバイによる業務継続

環境例	• Windows サーバ 1台
要件例	• Windows サーバを RPS にバックアップ • バックアップ データを遠隔転送 • 予めバックアップデータを自動リカバリしておき、障害発生時には仮想マシンを起動するだけの短時間で業務継続（仮想スタンバイ）

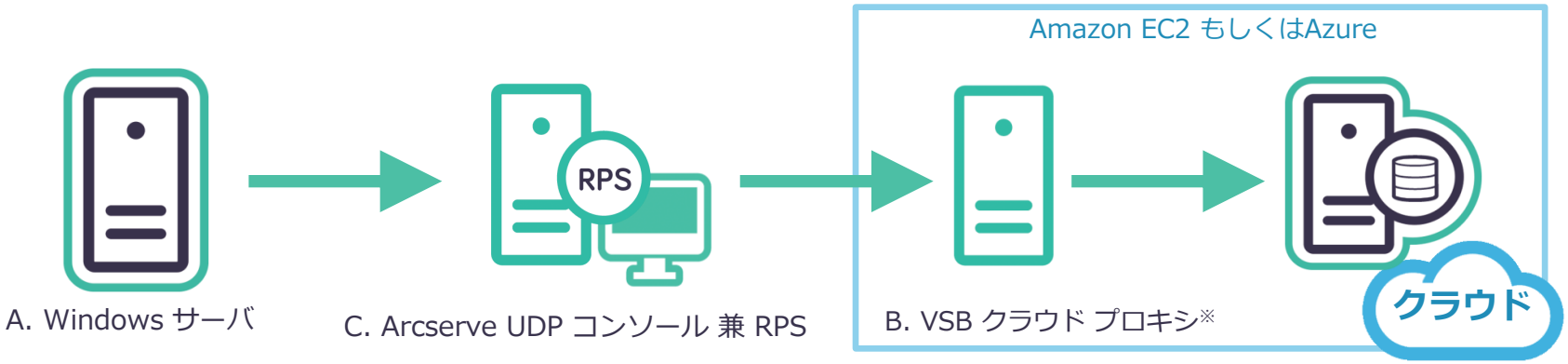


ライセンス	バックアップ対象	Edition	課金単位	数
	A	Advanced	サーバ単位	1
ポイント	Windows サーバを RPS にバックアップします。ファイル単位リストアや重複排除、ベアメタル復旧が標準機能として利用できます。バックアップデータの遠隔転送も標準機能として利用可能で、転送後のバックアップデータを自動的にリカバリしておき、障害発生時は仮想マシンを起動するだけの短時間で業務継続できます。			

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

[15] AWS EC2 /Azure 上に仮想スタンバイし業務継続

環境例	• Windows サーバ 1台
要件例	• Windows サーバを RPS にバックアップ • Amazon EC2、または Azure に予めバックアップデータを自動リカバリし、障害発生時にはクラウド 上の仮想マシンを起動するだけの短時間で業務継続（仮想スタンバイ）



ライセンス	バックアップ対象	Edition	課金単位	数
	A	Advanced	サーバ単位	1
ポイント	Windows サーバを RPS にバックアップします。ファイル単位リストアや重複排除、ベアメタル復旧が標準機能として利用できます。バックアップ完了後に自動的にクラウドへデータ転送を行い、障害発生時はクラウドの仮想マシンを起動するだけの短時間で業務継続できます。 *バックアップ先が共有フォルダの場合でも利用できます			

※ VSB クラウド プロキシとは、データ転送を実行するサーバです。Azure の場合、オンプレミス のRPS から直接 Azure に仮想スタンバイを作成できます。

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

[16] インスタント VM による短時間での復旧

環境例	• Windows または Linux サーバ 1台
要件例	• Windows または Linux サーバを RPSにバックアップ • バックアップデータを参照し仮想マシンとして起動して業務継続

A. Windows または Linux サーバ

B. Arcserve UDP コンソール 兼 RPS

C. VMware vSphere
Hyper-V
Nutanix AHV*

ライセンス	バックアップ対象	Edition	課金単位	数
	A	Advanced*	サーバ単位	1
ポイント	インスタントVM を使用すると、バックアップ データ（復旧ポイント）を仮想ディスクとして参照する仮想マシンを起動できるため、短時間で仮想マシンによる業務継続を実現します。とにかく短時間で復旧したい、手軽に復旧確認がしたい方向けの機能です。インスタントVM はローカル/遠隔地のどちらの復旧ポイントも参照先に指定できます。 *Nutanix AHV上のインスタントVMはLinux環境のみサポートします。また、Nutanix AHVでインスタントVMを利用する際は、「Advanced Edition for Nutanix」をご利用ください。			

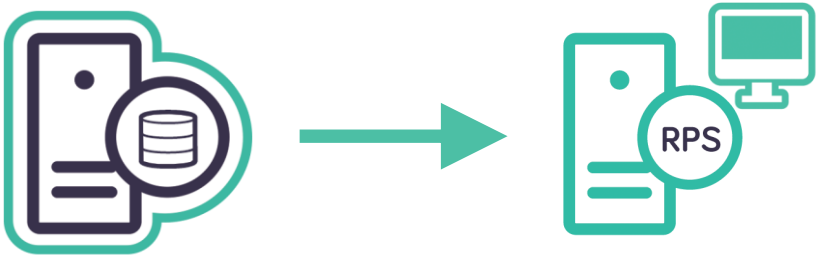
arcserve

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

[17] Microsoft SQL/Exchange/SharePoint/Oracle の無停止バックアップ

環境例	• Windows サーバ 1台
要件例	• WindowsサーバをRPSにバックアップ • Microsoft SQL・Exchange・SharePoint・Oracle Database を無停止でサーバ全体をバックアップ • 障害時はバックアップ元または別サーバにシステム復旧 • Microsoft SQL・Exchange のDB単位リストア、Oracleの表領域単位リストア • Microsoft Exchange のメール単位リストア（詳細リストア）

A. Windowsサーバの Microsoft SQL、Microsoft Exchange、Microsoft SharePoint、Oracle Database



B. Arcserve UDP コンソール 兼 RPS

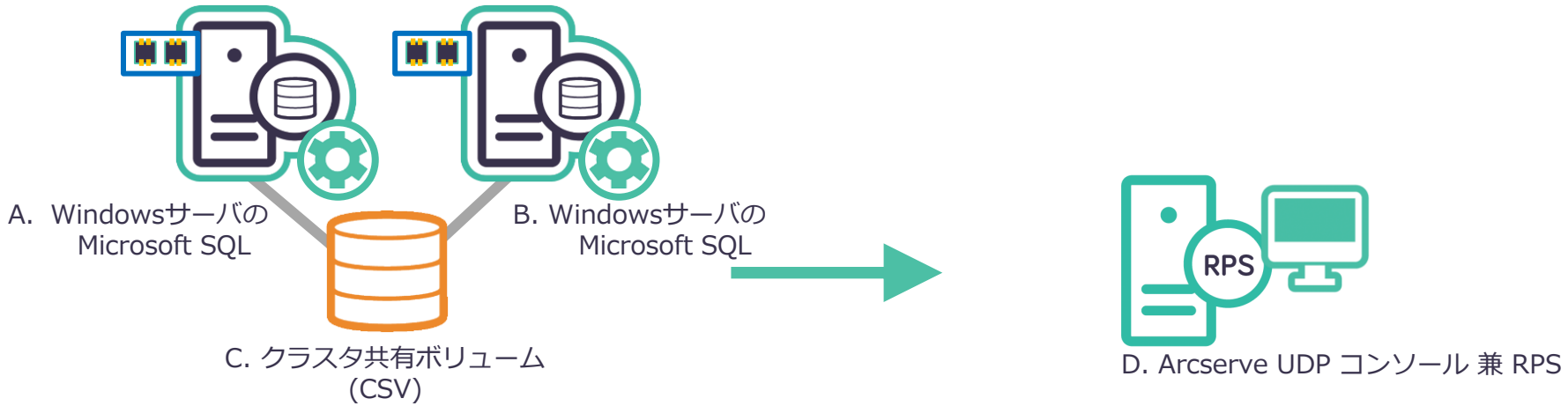
ライセンス	バックアップ対象	Edition	課金単位	数
	A	Advanced	サーバ単位	1
ポイント	Microsoft SQL・Exchange・SharePoint・Oracle Database を含めシステム全体をオンラインで RPS にバックアップします。ベアメタル復旧することもデータベース単位(Oracleは表領域)でリストアすることも可能です。Microsoft Exchange はメール単位のリストアも可能です。DBは、同一サーバ上に複数インスタンスが存在しても１ライセンスでバックアップできます。 ＊ バックアップ先が共有フォルダの場合でも利用できます。 ＊ Microsoft 365 の Exchange Online をバックアップするには別途専用ライセンスが必要です			

arcserve

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

[18] クラスタ共有ボリューム (CSV) の Microsoft SQL のバックアップ

環境例	• ボリューム、Arcserve UDP コンソール兼 RPS 1台
要件例	• 2 ノードで構成されているクラスタ共有ボリューム上の Microsoft SQL をバックアップ

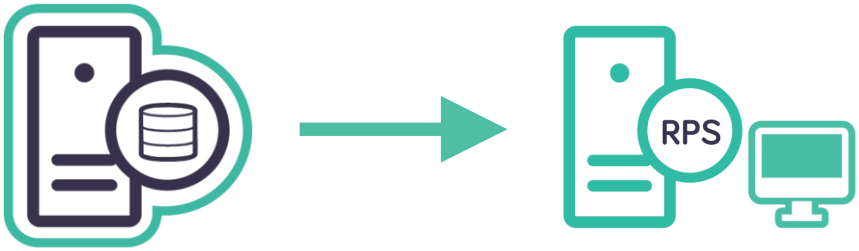


ライセンス	バックアップ対象	Edition	課金単位	数
	C	Advanced	サーバ単位	2
ポイント	クラスタ共有ボリューム(CSV)に作成された Microsoft SQL Server データベースのバックアップができます。クラスタ共有ボリュームのバックアップは、クラスタを構成している環境のすべてのサーバのライセンスが必要です。 *各 Windows サーバに Arcserve UDP のエージェントを導入し、サーバ全体をバックアップ対象とすることで、サーバおよび Microsoft SQL Server の保護ができます。			

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

[19] Active Directory ドメイン コントローラのバックアップ

環境例	• Windows サーバ 1台
要件例	• Active Directory ドメインコントローラを RPS にバックアップ • 障害時はバックアップ元または別サーバにシステム復旧 • Active Directory データベースのオブジェクト単位リストア



A. Windowsドメインの
ドメインコントローラ

B. Arcserve UDP コンソール 兼 RPS

ライセンス	バックアップ対象	Edition	課金単位	数
	A	Advanced	サーバ単位	1
ポイント	ドメインコントローラ全体をRPSにバックアップします。ファイル単位リストアや重複排除、ベアメタル復旧が標準機能として利用できます。また、Active Directory データベースは、オブジェクト単位リストアが可能でありユーザ単位のリストアなどが標準機能で利用ができます。 *バックアップ先が共有フォルダの場合でも利用できます			

arcserve

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

[20] Linux サーバ上の Oracle のオンライン バックアップ

環境例	• Linux サーバ 1台
要件例	• Linux サーバを RPS にバックアップ • Oracle Database を無停止でバックアップ • 障害時はバックアップ元または別サーバにシステム復旧 • 表領域単位でリストア

A. Linux バックアップ サーバ　B. Linux サーバ (Oracle Database)　C. Arcserve UDP コンソール 兼 RPS

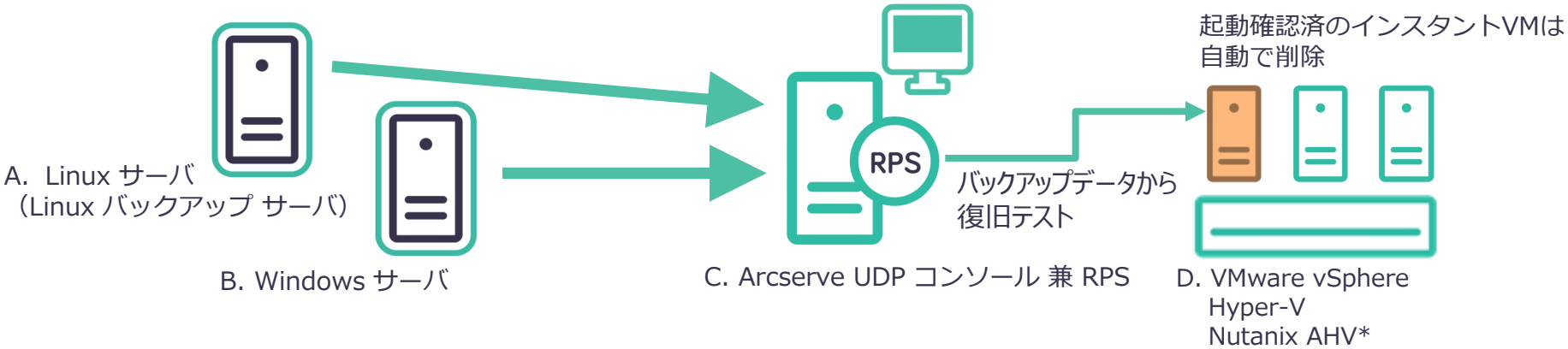
ライセンス	バックアップ対象	Edition	課金単位	数
	B	Advanced	サーバ単位	1
ポイント	アプリケーション含めシステム全体を RPS にバックアップする構成です。（RPS を使用せず、共有フォルダへバックアップすることもできます）バックアップ前にスクリプトを自動実行し、Linux サーバ上の Oracle データベースをバックアップ モードに変更することで Oracle を無停止でバックアップします。障害時は表領域単位のリストアやサーバ全体のリカバリに対応します。同一サーバ上に複数インスタンスが存在しても 1 ライセンスでバックアップできます。			

arcserve

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

[21] アシュアード リカバリ (バックアップ データの確認)

環境例	• Windows サーバ 1台
要件例	• RPS にバックアップし、バックアップデータ量を重複排除で削減 • バックアップ完了後、復旧ポイントで復旧テストを実行し、データの健全性を確認

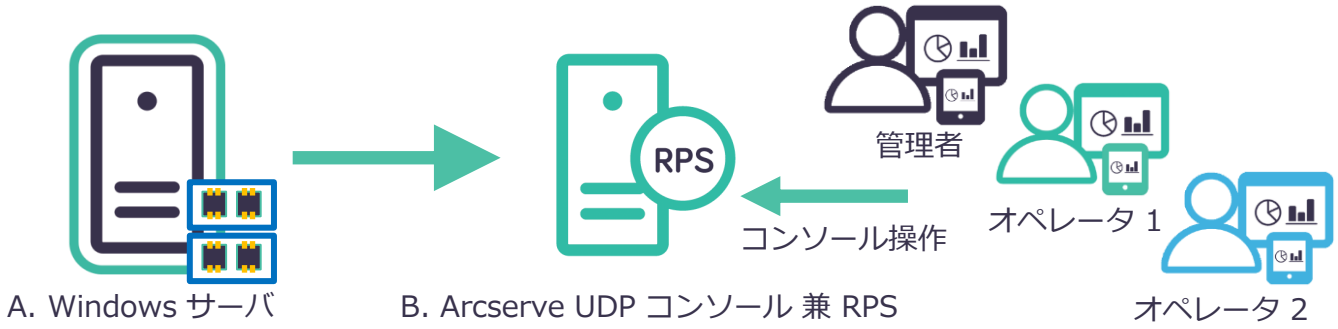


ライセンス	バックアップ対象	Edition	課金単位	数
	A、B	Premium	ソケット単位	3
ポイント	バックアップ完了後の復旧ポイント（バックアップデータ）に対し、アシュアード リカバリを実行して復旧可能な状態であることを確認します。アシュアード リカバリは、復旧ポイントからインスタントVM の起動確認、または復旧ポイントをローカル ディスクとしてマウントしファイル システムの確認(Windows サーバのみ)の２種類の方法から選択できます。転送先でも復旧テストを行うことができます。 ※バックアップ先が共有フォルダおよび転送先でも利用できます。 ＊Nutanix AHV上のアシュアード リカバリはLinux環境のみサポートします。			

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

[22] Arcserve UDP コンソールを操作するユーザに権限を割り当て

環境例	• Windows サーバ 1台
要件例	• Windows サーバを RPS にバックアップ • Arcserve UDP コンソールを操作するユーザに権限を割り当てセキュリティ強化 • 障害時はバックアップ元または別サーバにシステム復旧 • A サーバの CPU ソケット数は 2



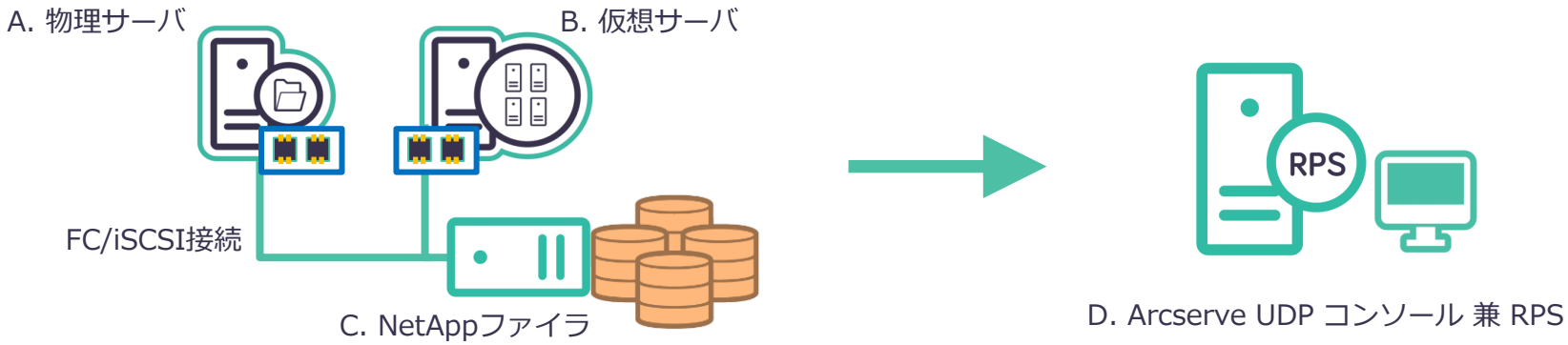
ライセンス	バックアップ対象	Edition	課金単位	数
	A	Premium	（Aの）ソケット単位	2
ポイント	A サーバのシステム全体を RPS にバックアップします。Arcserve UDP コンソールを操作するユーザに権限を割り当て、バックアップ運用時のセキュリティを強化します。権限の種類には「プラン作成」、「バックアップ」、「リストア」、「ステータス参照」などから設定でき、ステータス参照しかできないユーザを設定することも可能です。			

arcserve

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

[23] ストレージ連携による高速バックアップ

環境例	• NetAppファイラ、HPE 3PAR StoreServ、Nimble Storageアレイ、Kaminiario K2、DELL EMC Unity 上記いずれか1台
要件例	• ボリュームがマウントされているサーバのバックアップ • ハードウェア スナップショットとの連携で、バックアップ対象の静止点を確保



	バックアップ対象	Edition	課金単位	数
ライセンス	A	Premium	ソケット単位	1
	B	Premium	ソケット単位	1
ポイント	NetAppファイラ、HPE 3PAR StoreServ、Nimble Storageアレイ、 Kaminiario K2 ボリューム、DELL EMC Unity に保存したデータをハードウェアスナップショット機能を利用し RPS にバックアップできます。マウントされたストレージがハードウェア スナップショットを利用できる場合は、Arcserve UDP が自動認識するのでバックアップ設定に手間がかかりません。			

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

仮想環境

arcserve®

[24] UDP エージェントを利用した vSphere / Hyper-V Nutanix AHV 仮想マシンのバックアップ

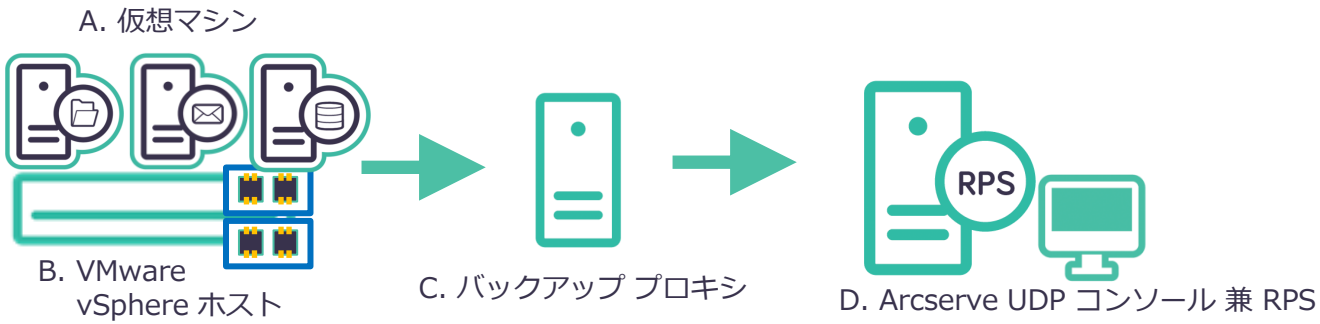
環境例	• 1ホスト上の仮想マシン 複数台 • 仮想ホストの CPU ソケット数は2
要件例	• 仮想マシンにエージェントを導入し、物理サーバと同じ方法でバックアップ • 仮想マシンのベアメタル復旧、またはファイル単位リストア

ライセンス	バックアップ対象	Edition	課金単位	数
	B上の仮想マシン	Advanced*	(Bの) ソケット単位	2
ポイント	仮想ホストのソケット数にライセンスし、1ホスト上の仮想マシンを台数無制限でバックアップできます。仮想マシンに Arcserve UDP エージェントを導入し、物理サーバと同じ方法で仮想マシンをバックアップできます。仮想マシン全体の復旧、ファイル単位リストアが行え、仮想マシン上の Microsoft SQL・Exchange・SharePoint・Oracle Database のオンラインバックアップも行えます。 *Nutanix AHV環境のゲストをエージェントを利用したバックアップの場合、Advancedまたは「Advanced Edition for Nutanix」をご利用ください。			

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

[25] vSphere 仮想マシンの エージェントレス バックアップ

環境例	• 1ホスト上の仮想マシン 複数台 • 仮想ホストの CPU ソケット数は 2
要件例	• エージェントを導入せずに仮想マシンをバックアップ • 仮想マシンの復旧、またはファイル単位リストア



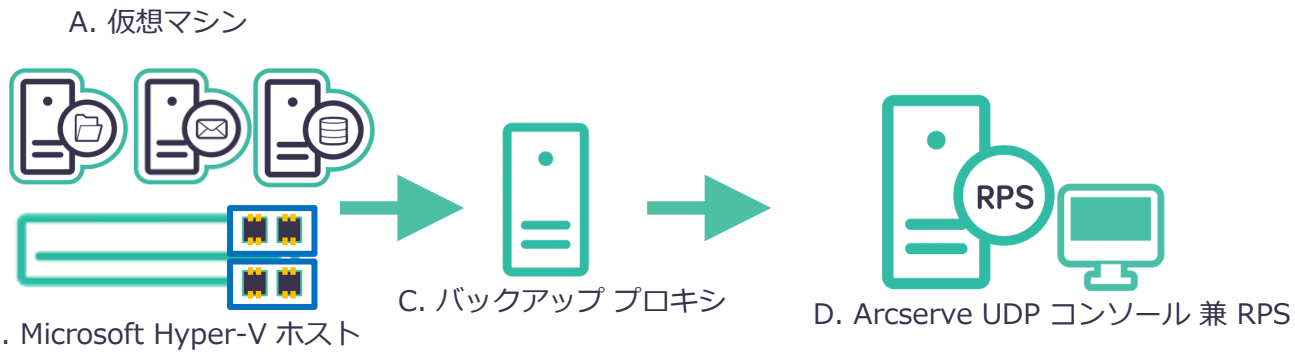
ライセンス	バックアップ対象	Edition	課金単位	数
	B上の仮想マシン	Advanced	（Bの）ソケット単位	2
ポイント	vSphere 仮想マシンをエージェントレスでバックアップする基本構成です。仮想ホストのソケット数にライセンスし、1ホスト上の仮想マシンを台数無制限でバックアップできます。仮想マシンの復旧、ファイル単位リストアが行え、仮想マシン上のMicrosoft SQL・Exchange・SharePoint・Oracle Database のオンラインバックアップも行えます。 ＊バックアップ プロキシとは、バックアップ処理を実行するサーバですバックアップ プロキシをバックアップする場合は、別途ライセンスが必要です			

arcserve

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

[26] Hyper-V 仮想マシンのエージェントレス バックアップ

環境例	• 1ホスト上の仮想マシン 複数台 • 仮想ホストの CPU ソケット数は 2
要件例	• エージェントを導入せずに仮想マシンをバックアップ • 仮想マシンの復旧、またはファイル単位リストア



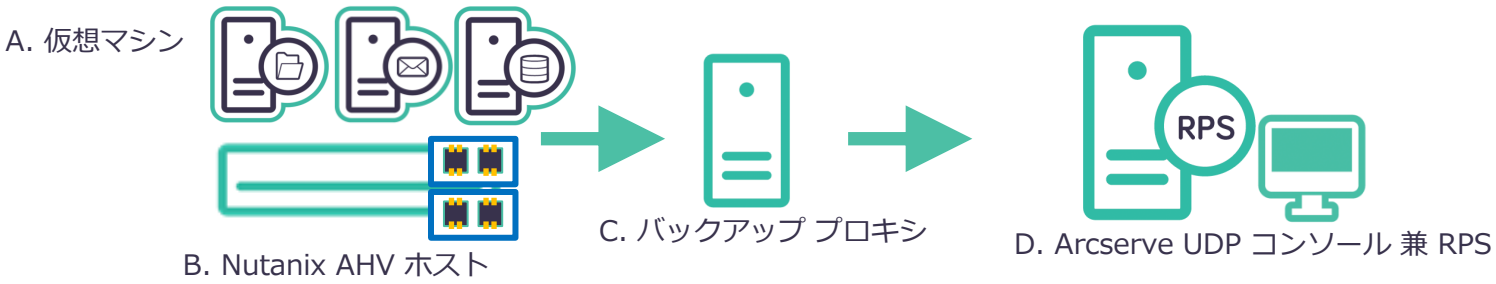
ライセンス	バックアップ対象	Edition	課金単位	数
	B上の仮想マシン	Advanced	(Bの)ソケット単位	2
ポイント	Hyper-V 仮想マシンをエージェントレスでバックアップする基本構成です。仮想ホストのソケット数にライセンスし、1ホスト上の仮想マシンを台数無制限でバックアップできます。仮想マシンの復旧、ファイル単位リストアが行え、仮想マシン上の Microsoft SQL・Exchange・SharePoint / Oracleのオンラインバックアップも行えます。 * Microsoft 365 の Exchange Online のバックアップには別途専用ライセンスが必要です *バックアップ プロキシとは、バックアップ処理を実行するサーバですバックアップ プロキシをバックアップする場合は、別途ライセンスが必要です			

arcserve

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

[27] Nutanix AHV 仮想マシンの エージェントレス バックアップ

環境例	• 1ホスト上の仮想マシン 複数台 • 仮想ホストの CPU ソケット数は 2
要件例	• エージェントを導入せずに仮想マシンをバックアップ • 仮想マシンの復旧、またはファイル単位リストア

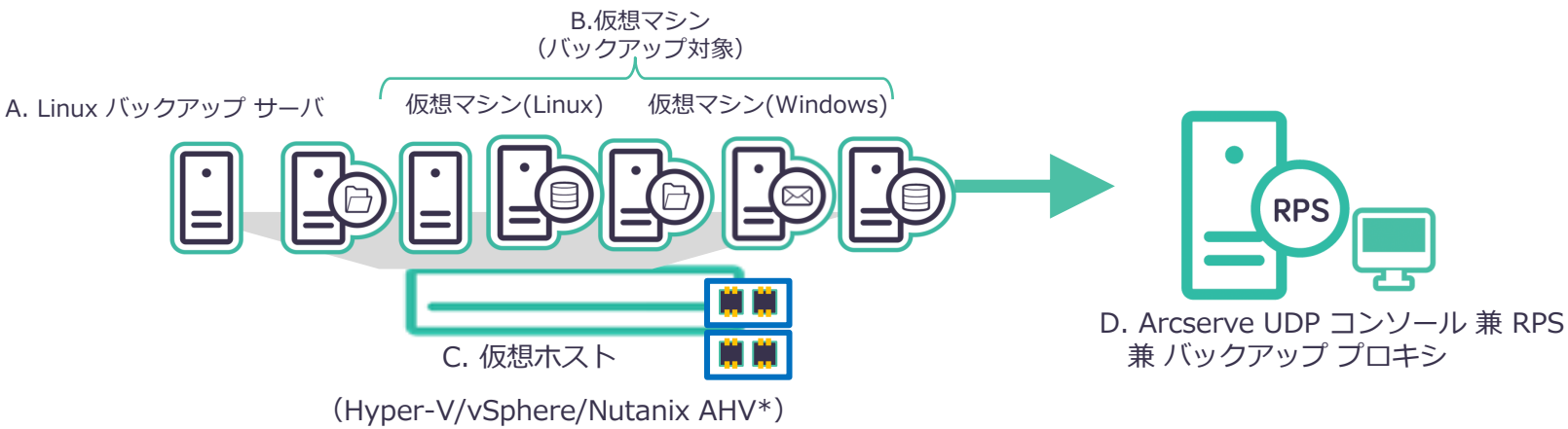


	バックアップ対象	Edition	課金単位	数
ライセンス	B上の仮想マシン	Advanced Edition for Nutanix	(Bの)ソケット単位	2
ポイント	Nutanix AHV 仮想マシンをエージェントレスでバックアップする構成です。仮想ホストのソケット数にライセンスし、1ホスト上の仮想マシンを台数無制限でバックアップできます。仮想マシンの復旧、ファイル単位リストアが行え、仮想マシン上の Microsoft SQL・Exchange・SharePoint・Oracle Database のオンラインバックアップも行えます。 *Nutanix AHV 環境では、「Advanced Edition for Nutanix」ライセンス が必要です *Nutanix Files のバックアップには仮想マシンのエージェントレス バックアップ用のライセンスとは別に、バックアップ対象パスの中で指定する共有フォルダのサーバ名数に応じた「Advanced Edition for Nutanix」ライセンス が必要です。			

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

[28] Windows / Linux 仮想マシン混在環境の エージェント レス バックアップ

環境例	• 1ホスト上の仮想マシン 複数台（Windows/Linux が混在） • 仮想ホストの CPU ソケット数は 2
要件例	• エージェントを導入せずに仮想マシンをバックアップ • 仮想マシンの復旧、またはファイル単位リストア



ライセンス	バックアップ対象	Edition	課金単位	数
	C上の仮想マシン	Advanced*	(Cの)ソケット単位	2
ポイント	Windows / Linux が混在していても仮想マシンを エージェントレスでバックアップし、仮想マシンの復旧やファイル単位リストアが行えます。バックアップ先をRPSに指定することで重複排除バックアップが行え、RPSサーバを遠隔地に追加することでバックアップデータの遠隔転送による災害対策も実現できます。 ※ Linux仮想マシンのファイルレベルリストアを実行するには Arcserve UDP Agent for Linux がインストールされた「A. Linux バックアップ サーバ」が必要です *Nutanix AHV環境のエージェントレスバックアップは「Advanced Edition for Nutanix」をご利用ください。			

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

[29] Arcserve Backupで仮想マシン上のDBサーバを無停止でテープにバックアップ

環境例	• 1ホスト上の仮想マシン 複数台 • 仮想ホストの CPU ソケット数は 2
要件例	• 仮想マシン上の Domino および Oracle RMAN で Arcserve Backup エージェントを利用したオンライン バックアップ • 仮想マシンをエージェントレス バックアップ • Arcserve UDP のバックアップデータはマルチ ドライブ ライブラリに2次保管

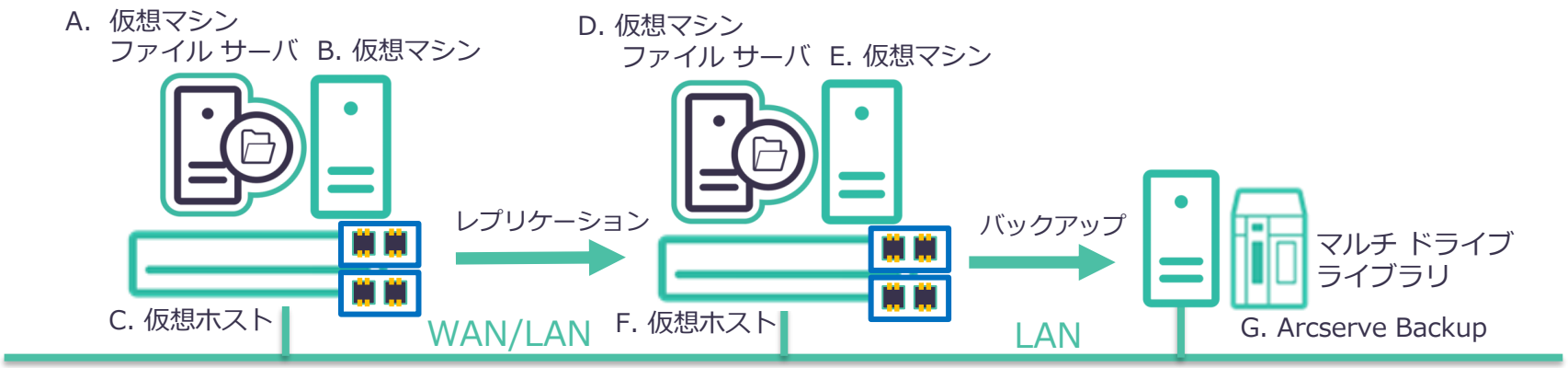
ライセンス	バックアップ対象	Edition	課金単位	数
	C上の仮想マシン	Premium	(Cの)ソケット単位	2
ポイント	Premium Edition なら Arcserve Backup 全機能が利用可能なので、Domino や Oracle RMAN でのオンラインバックアップやマルチ ドライブ ライブラリの利用ができます。保護対象の仮想マシンをArcserve Backupで保護することも、Arcserve UDP で保護することもできます。Hyper-V ホストであれば仮想ホストも保護できます。			

arcserve

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

[30] Arcserve Replication で仮想ファイル サーバを複製し バックアップ

環境例	• 2台の仮想ホストと各ホスト上の仮想マシン複数台 • 仮想ホストの CPU ソケット数は各 2
要件例	• ファイル サーバとして構成された仮想マシンのデータをリアルタイム複製 • 複製先の仮想マシンをバックアップ



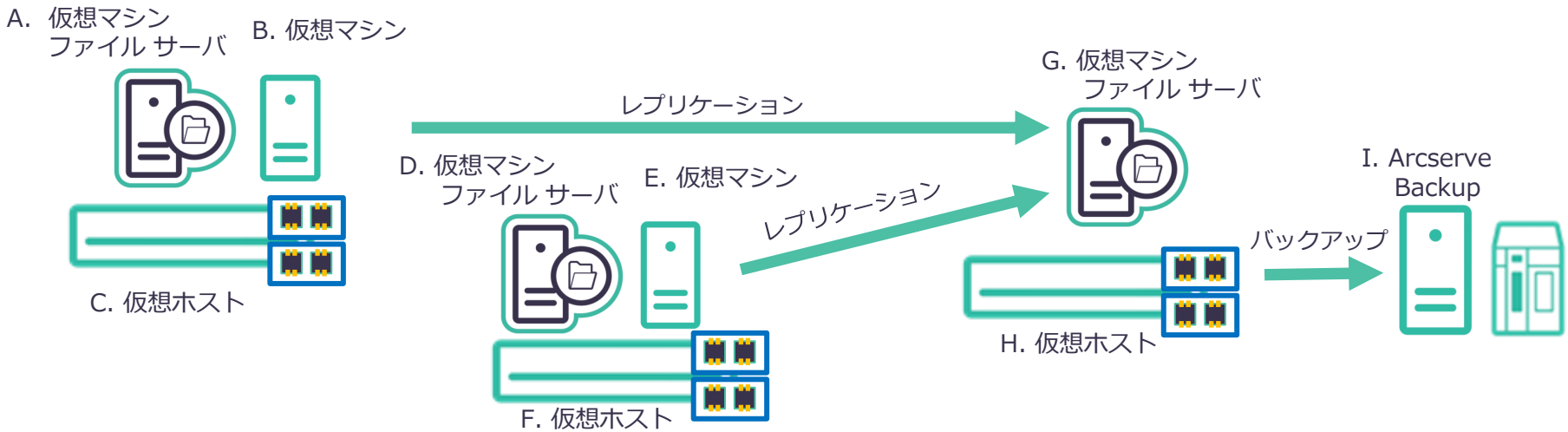
ライセンス	バックアップ対象	Edition	課金単位	数
	C、F上の仮想マシン	Premium	ソケット単位	4
ポイント	Premium Edition に含まれる Arcserve Replication ファイルサーバ版のライセンスを利用し、ファイル サーバのデータをリアルタイムに複製することができます。Arcserve Backup 全機能が併用できるので、Arcserve Replication との連携バックアップも可能です。 * Arcserve Replication 機能を利用する場合、複製元と複製先サーバ(物理/仮想 ホスト)のソケット合計数分のライセンスが必要です			

arcserve

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

[31] Arcserve Replicationで複数の仮想ファイル サーバを複製しバックアップ

環境例	• 3台の仮想ホストと各ホスト上の仮想マシン複数台 • 仮想ホストの合計 CPU ソケット数は 6
要件例	• ファイル サーバとして構成された複数の仮想マシンのデータを複製



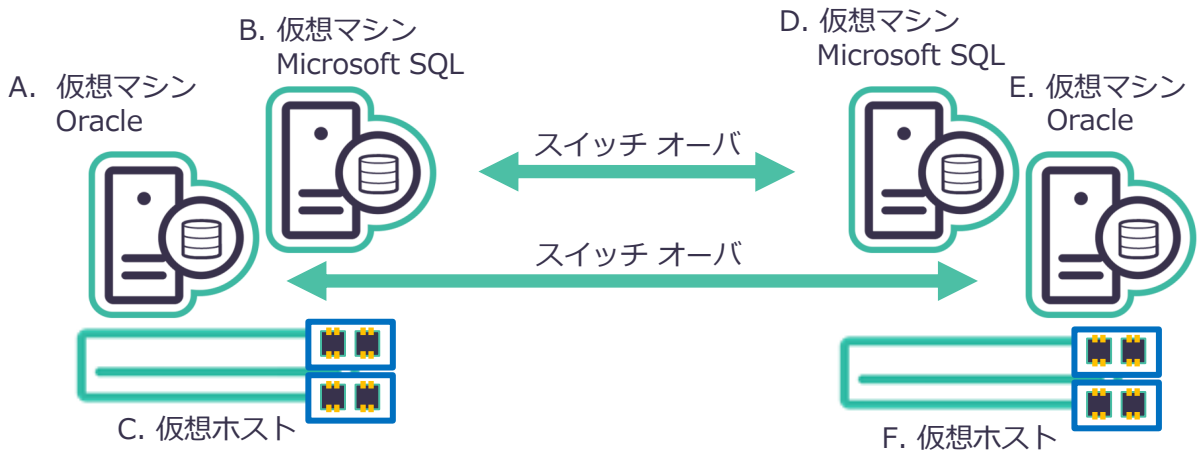
ライセンス	バックアップ対象	Edition	課金単位	数
	C、F、H上の仮想マシン	Premium	ソケット単位	6
ポイント	Premium Edition ではファイル サーバ上のデータをリアルタイムに複製できるので、複数の仮想ファイルサーバを別の仮想マシンへ集約し複製できます。Arcserve Backup 全機能が併用できるので、Arcserve Replicationとの連携バックアップも可能です。 * Arcserve Replication 機能を利用する場合、複製元と複製先サーバ(物理/仮想 ホスト)のソケット合計数分のライセンスが必要です			

arcserve

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

[32] Arcserve High Availability で複数の仮想DB サーバをスイッチオーバ

環境例	• 仮想ホスト2台、仮想マシン複数台 • 仮想マシン上にデータベース サーバが複数台
要件例	• データベース サーバを遠隔地に切り替え運用を継続する

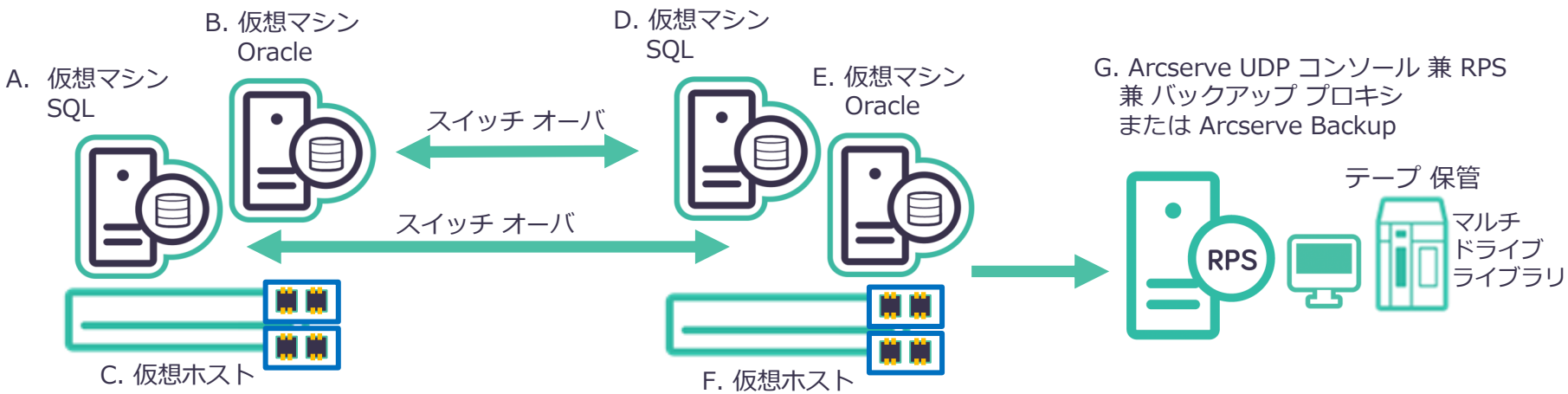


ライセンス	バックアップ対象	Edition	課金単位	数
	C、F上の仮想マシン	Premium Plus	（C、Fの）ソケット単位	4
ポイント	Premium Plus Edition なら仮想マシン上のデータベースをリアルタイムに複製し、災害時には自動切り替え機能で運用継続ができます。Arcserve Replication/High Availability 機能を利用する場合、ライセンスは複製元と複製先サーバ(物理/仮想ホスト)のソケットの合計数が必要です。			

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

[33] Arcserve High Availability で仮想DBサーバをスイッチオーバし、UDPでバックアップ

環境例	• 仮想ホスト2台、仮想マシン複数台 • 仮想マシン上にデータベース サーバ複数台
要件例	• データベース サーバを遠隔地に切り替えて運用を継続する • 複製先でバックアップを行う



ライセンス	バックアップ対象	Edition	課金単位	数
	C、F上の仮想マシン	Premium Plus	（CとFの）ソケット単位	4
ポイント	Premium Plus Edition なら Arcserve シリーズ全製品が利用できるので、仮想マシン上のデータベースサーバをArcserve High Availability でリアルタイムに複製し障害発生時は自動スイッチオーバすることでサーバを冗長化できます。さらに複製先の仮想サーバを Arcserve UDP または Arcserve Backup でバックアップすることもできます。 * Arcserve Replication/High Availability 機能を利用する場合、ライセンスは複製元と複製先サーバ(物理/仮想ホスト)のソケットの合計数が必要です			

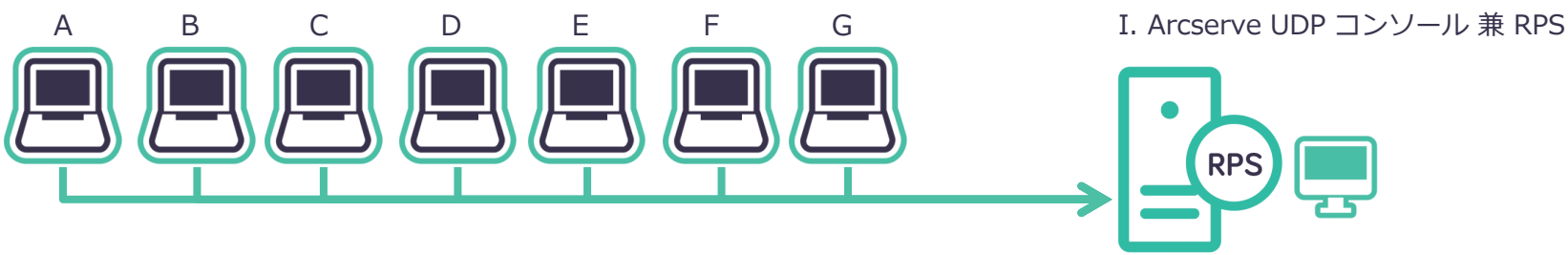
Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

クライアントPC

arcserve®

[34] クライアントPCのバックアップ

環境例	• クライアント OS が稼働する PC 7 台
要件例	• 各クライアント OS のシステムをバックアップ • 初回はフル、2回目以降は増分のみでバックアップ時間を短縮 • ファイル単位でリストア • 障害時はバックアップ元または別マシンに復旧（システム保護）



	バックアップ対象	Edition	課金単位	数
ライセンス	A - E	Workstation	5クライアント単位	1
	F、G	Workstation	1クライアント単位	2
ポイント	Windows 8 や Windows 10などのクライアント OS が稼働するマシンを復旧ポイントサーバ（RPS）や共有フォルダにバックアップし、クライアントPCのベアメタル復旧やファイル単位リストアが行えます。1クライアントパックと 5 クライアントパックがあります。			

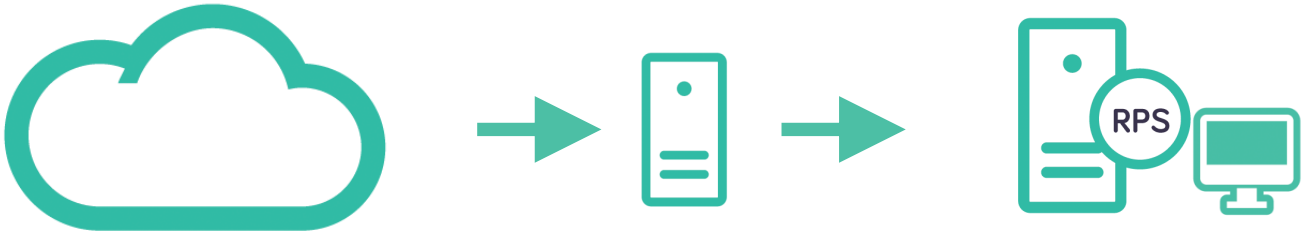
Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

Microsoft 365

arcserve®

[35] Microsoft 365 (Exchange Online/SharePoint Online/ OneDrive/Teams) の保護

環境例	• Microsoft 365 データ (Exchange メールと SharePoint ドキュメントと OneDrive、Teams) の保護 8 ユーザ分
要件例	• Microsoft 365 を利用しているユーザのメールと予定表、ドキュメント、Teams のチャット履歴などをオンプレミスにバックアップしたい



A. Microsoft 365　　B. バックアップ プロキシ　　C. Arcserve UDP コンソール 兼 RPS

ライセンス	バックアップ対象	Edition	課金単位	数
	A. Microsoft 365のデータ	Microsoft 365	10 ユーザ単位	1
ポイント	Microsoft 365 サブスクリプションは、Exchange Online (電子メール、予定表、連絡先、タスク、メモ)、SharePoint Online (サイトとリストアイテム)、OneDrive、Teams (チャット、共有ファイル) を保護できます。 * バックアップ対象テナントに含まれるすべての有効な Microsoft 365 ライセンスと同数の購入が必要です * 継続的な増分バックアップが可能です * バックアップデータをテープへコピーを行う場合、別途ライセンスが必要です * プロキシとは、バックアップ処理を実行するサーバです。バックアップ プロキシをバックアップする場合は、別途ライセンスが必要です * データ容量課金ライセンスまたは UDP Applianceでは、購入した容量の範囲内で Microsoft 365 サブスクリプションを無制限に利用できます。			

arcserve

Copyright ©2021 Arcserve(USA), LLC. All rights reserved.

arcserve®